

農村観光地川場村における景観の経年変化に関する研究

○佐藤 憧治「東京農業大学」 麻生 恵「東京農業大学」 町田 玲子「東京農業大学」

広場など一定範囲の景観の変遷に関する研究は多く存在するが、地域レベルでの広域な景観（場の景観）の変遷に関する研究は少ない。地域レベルの景観変遷において、小さな景観の変化は人にとって認識しづらく影響も少ないが、この変化が経年的に蓄積することでの景観の変化の影響は大きい。

そこで、本研究では平野部の山々に囲まれた一体的な空間を構成している群馬県利根郡川場村を対象とし広域的な景観の変遷を明らかにした。対象地の広域的な景観変遷を明らかにすることにより、10年～20年単位の長期的な景観のコントロールにつなげることを目的とした。

研究方法はフォトグリッド調査とVTR調査とした。フォトグリッド調査では対象地の景観をまんべんなく把握するために対象地の中の50地点から東西南北に撮影した画像データを用い、このデータを5年前のデータと比較した。VTR調査では村内の主要道路を乗用車で時速40Kmで走行し、その撮影データを5年前のデータと比較した。いずれの調査も平面ではなく立面で空間をとらえる事で、より人の目線に近い条件での調査とした。

栃木県塩谷郡高根沢町における幼児の余暇活動と生活習慣

○齋藤君世（早稲田大学eスクール） 泉 秀生（東京未来大学）
前橋 明（早稲田大学人間科学学術院）

要旨：平成28年4月と7月に、栃木県塩谷郡高根沢町のT幼稚園に通う3歳～6歳の幼児241名（男児125名、女児116名）の保護者に対して、幼児の余暇活動と生活習慣に関するアンケート調査を実施した。また、調査対象となった園の幼稚園教諭に対して、幼児の生活習慣に関わる働きかけや、意識の実態を把握するために、前橋の「子どもの成長・発達状況の診断」1)を行った。そして、高根沢町に居住する幼児が、心身ともにいきいきとした生活を送るために、教育機関ができることを模索し、今後の方策を検討していくこととした。その結果、

- (1) 4月と7月の幼児の生活時間の平均値の比較により、生活時間の改善に有意な差が認められたのは、3歳の男女におけるテレビ・ビデオ視聴時間であった。
- (2) 平均就寝時刻は21時前、平均起床時刻は7時前、平均睡眠時間は10時間以上であった。
- (3) 教師における、幼児の成長・発達に関わる啓発の程度は、4月と比べると全体的に点数が高くなっていったが、「⑥親からのほたらきかけ・応援」に関する啓発が3.8点と最も低く、次に、「②栄養・食事」に関する意識が4.0点であった。

以上のことから、栃木県高根沢町の幼稚園幼児における生活習慣の課題として、テレビ・ビデオ視聴時間の短縮や、園内生活時間内での運動量の確保、教師による保護者に対する意識啓発を積極的に、かつ、工夫して行うことの必要性が示された。

幼稚園や保育園に通う幼児は、日中の多くの時間を園で過ごすため、幼児の実態に基づいた情報発信を積極的にいながら、日中の運動量を確保していくことが求められよう。

key words：幼稚園幼児，睡眠，排便，テレビ・ビデオ視聴，栃木県高根沢町
文 献

- 1) 前橋 明：3歳からの今どき「外あそび」育児，主婦の友社，pp. 6-13, 2015.